

223

知つて置く可き支那人の人情風俗

佐賀縣立伊萬里商業學校
經營研究室

特240
201

三
輯



0053680000

0053680-000

特240-201

知つて置く可き支那人の人情風俗

佐賀縣立伊萬里商業學校

昭和14

AIA

目次

第一節 支那の國民性	一
建 國	一
無 爲 而 化	四
支那人の國家觀	六
支那人の自尊心	八
實 利 主 義	九
形式的、皮相的道德觀	二
衣 服	二
酒	三
親 孝 行	四
溺 女 の 法	五
面 子 (ミエンツ)	六
第二節 日本人と支那人の好き嫌ひの相違	七
龜	七
鬼	八
偶 數 奇 數	九
帽 子	九
字	一〇
茶	三
不 潔	三
髮 剃	四
第三節 支那人の諸性質	四
北方人と南方人	四
不 正 直	六
盜 賊	六
金錢に對する態度	七
宣 傳	七
國事を談ずる勿れ	七
文字を大切にす	七
五分間の熱(五分鐘的熱度)	七
第四節 共存共榮	七
大 家 族	七
幫	八
株 式 會 社	九
商 店	一〇
日支の共存共榮	一〇

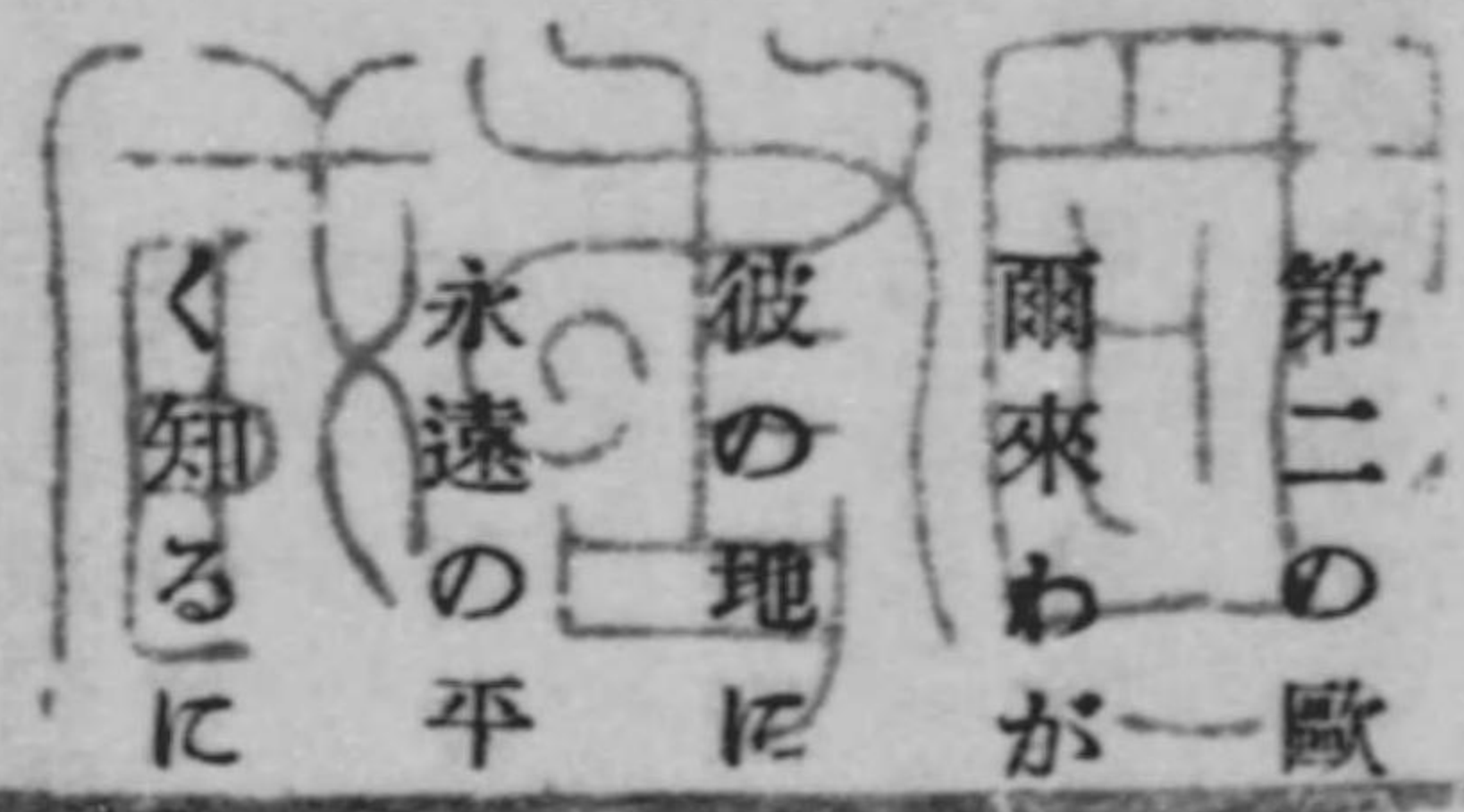
卷 頭

校長 横 地 徹 三

日支事變第三の春を迎へ今や我が國民は物心總力を擧げ東亞新秩序長期建設の眞只中にあり。時恰も歐亞の風雲急にして一大危機に直面し

第二の歐洲大戰は將に勃發せんとす。

爾來わが佐賀は一葦帶水に大陸を控へ伊萬里唐津は其の門口に彼の地に飛躍するに最も有利の地位にあり、日滿支一体となり永遠の平和を計るには我等は先づ彼等と接し彼等の人情風俗言語をよく知るにあり。又他方彼等をして吾れをよく知らしめ、吾れに依らしめ、茲に始めて日本民族の理想八紘一字の大使命は遂行さるるなり。



我校夙に茲に見る所あり。一昨年秋東亞經濟調査部を設置し日々其の資料の蒐集研讀に此れ努め、又過日は伊萬里商工會と提携し短期支那語講習會(壹箇月)を開講し今又我校教諭古賀吾郎氏に委嘱し彼地の人情の機微風俗の相違を録せしむ。依て以て滿洲支那方面へ活動する者に對して幾分なりとも役立たしめんとす幸ひにして裨益する所あらば望外の喜びとする處なり。

昭和十四年春

知つて置く可き支那の人情風俗

支那民族を指導し、支那の富源を開發して、中華民國に王道政治を布く事は、亞細亞の盟主である我が帝國の使命である。日支の關係が親密になり、複雑になるに隨つて、今後大陸に渡る者も益々増加するであらう。そんな人の爲に寔に烏滸がましいが私の在支七年間に得た體驗を基礎として支那人の風俗習慣を少し書いて見ようと思ふ。尤も支那人の結婚だとか躑足だとか或は亞片を飲むと言ふ様な彼等だけに止つて日本人にあまり影響を及ぼさない習慣は省いて吾吾日本人が支那人と接する場合、是非知つて居た方が望ましいと思ふ事を少し書いて見よう。

支那の國民性

一、建 國

支那民族の風俗習慣を述ぶるに當り順序として一先づ簡單に支那の國民性に就いて考察して見る必要がある。そして國民性を語るには矢張り支那の國家創成にまで遡つて見なければならぬ。

歴史に依れば漢民族は今の中央亞細亞より漸次東方に移動して北支那の河南省邊を中心として先づその活動の舞臺を展開した。此の地域は所謂黄河の沖積層で地味も大變肥沃であり、氣候も風雨寒暑順調であつて四季の變化にも富み、四圍の風物も自ら人々に秩序を重んじ、勤勞を尊ばしめる様な嚴肅溫和な風があつた。こんな土地柄であつたから其の民族は自ら農業を經濟の主本とする民族的部落を形成して多數諸方に散在分立する様になつた。彼等は妻子眷族と共に田を耕して食ひ井を堀りて飲み取て帝力に頼むの要もなく、又別に之に依りて加へらるゝ様なこともない單純幼稚な生活を送つたのであらう。農業民は小さい時から父母と共に田に出でて父母の慈愛深い指導の下に働き大きくなると共に其の父母の開拓して呉れた田地を其の儘譲り受けて生活の根源となす譯で、他の狩漁又は牧畜業者に比して有形的にも無形的にも父祖の恩惠を受けることが深く、随つて農業民族が父祖を敬重尊敬することも又遙かに他民族に勝れてゐるのが常である親に對する孝道が自ら此の間に起つて來るのは人情の當然のことである。こんな風に父祖に對する孝道の觀念倫道が一步之を延長して既に亡くなられた祖先に對して發露すれば之即ち祖先崇拜の祭祀の風俗となつて現れて來る。是が又純朴な社會に於

ては非常に有力な働をなして、血族を團結せしめ宗家が支配を統制して、所謂氏族團體を形成せしむる大原因となるのである詳言すれば祖先崇拜の精神は敦厚な人情敬虔な風俗を作り上げ祖父母、父母子孫、兄弟、伯叔、甥姪等縦にも横にも血族的感覺に基いて社會的な結合をなし、其の系統の直傍宗支によつて即ち先天的秩序に従つて族長が定まり、之が統制に當り平和な氏族團體が出来る。而もこんな平和な團體が三代、五代、十代と同一地域に定住することに依つて其の成員も漸次膨張して遂に總て同一民族からなる一大部落が出來るのである。之即ち氏族部落と稱せらるゝものである。當時北支那に繁榮した漢民族は概してこんな氏族部落を形成して多數諸方に散在して居つた。邦とか國とか稱して居つたのは之等氏族部落を意味してゐる。堯典に百姓昭明、協和萬邦と云ふ句あり、益稷にも萬邦の黎獻の語が出てゐる。

然しながら支那の様に廣大な大陸國では、各地に並立散在してゐる氏族部落の數も隨分多く、祖先の系統の同じくないものも少くない。而も此の血族的な感覺や自然的秩序等を基礎としてゐる社會的結合統制は、他の系統の氏族部落に迄及ぼすことは至難である。又武力を以て征伐威服する場合は、實力の

問題であるが他に何等か永く之等を心服させるものが無い限り常に叛亂の禍機が藏されてゐる。さりとて何等統制結合する所なく並立散在の儘に其等部落を放置すれば必ず侵奪衝突が起つて禍亂を醸す事は當然免れない所である。之即ち彼等が仁徳と云ふ倫理的基礎を以て部落を結合し、萬民を撫育するの要素となし遂に王道の原理を確立した所以であらふ。三皇五帝は實にこの仁徳を以て此等氏族部落を治めた立派な王者であつた。殊に五帝の中の堯舜は仁徳の偉大さを以て後世神の如く尊敬され、其の時代は支那の黄金時代として渴仰追慕されてゐる。

二、無 爲 而 化

堯舜時代に至つて漢民族は愈々王道政治の理想的形式を体得するに至つた。此の形式は今の中華民國まで終始一貫數千年間續いてゐる。其れは何かと云ふと「無爲而化」である。無爲而化と云ふ事は「國を治めるには上に立つ者は規則を作つたり、法律を作つたりして民を強制する様な事をしないで、身を修め公益を廣め、民が知らずの中に爲政者の徳に感應して、平和なそして恵まれた自治生活が出来る様に仕向ける」ことである。十八史略に依ると堯帝は即位後も土階三等の而も茅苴の極めて粗末な

家に起居し、身を修め徳を施す事を怠らなかつた。即ち曆を作つて農業に最も大切な時を知らせ、山澤を焼き禽獸を追ふて民に安住の地を與へ、又黄河の治水工事を爲す等民の生活を平和にするのにはあらゆる努力を惜まなかつた。即ち眞の王道政治を行ふたのであつた。爲に民は各部落とも豊かな平和な自治生活を樂しむ事が出来た。堯は天下を治むること五十年天下がよく治つてゐるか治つてゐないか、民が自己を信賴してゐるか否か解らなかつたので、微服して賑かな町に民情視察に出掛けて見た。所が子供達が大變堯の徳を稱へた歌を歌つてゐたし、又一老人が「日出でて作し日入りて息ふ、井を鑿ちて飲み田を耕して食ふ、帝力我に何かあらん」と歌つてゐるのを聞いて無爲而化と云ふ政治が好く徹底してゐるのを知つて至極満足した。こんな風に上に立つ者は身を修め徳を進め、民に先んじて憂へ民に後れて樂しむ事を旨として居らなければならないのであるが、民はどんな氣持で居つたかといふと「吾々は昔から平和な自治政治でやつて來た。今後あまり上の方から吾等の生活に干渉しないで呉れ」といふ氣持であつた。難かしい事が起つて解決がつかなくなつたり、邦と邦との間に争でも起つて困つた時には元后即ち帝力に頼むとしても、出来るだけ自治で行かふと云ふのである。ある

支那人の如きは「支那は治めずして治まる國である」と云つて寧ろ誇つてさへ居る。學生達が奥地に旅行をして偶々その土地が支那兵同志の戦争の眞最中であつても、比較的平穩で秩序も正しく宿屋もちやんと學生を宿してくれるのである。是は支那が前述の通り血族的自治團體たる氏族部落から漸次盛り上つて出来た國である爲で一方又大いに統一國家成立の一大障害となつてゐたのである。

三、支那人の國家觀

無爲而化といふ支那人の政治思想は、直ちに彼等の國家觀念に對して重大な意義を持つ。元來爲政者の方では身を修め徳を以て民を化し、民福を進めなければならぬ筈だが、世が澆季になるにつれて腐敗して來た。禪讓は大禹に至つて遂に廢れてしまつて最早有徳の聖人のみが天子となるとは限らない様になつた。そして「無爲而化」は遂に「別に苦んで手を入れて治めなくとも何うにかなるだらう」といふ風に墮落して終つた。人民はどうかと云ふと元來自治的に育つて來た人達であるし税金や勞役が軽くさへあれば其の主權者が漢民族であらうと、蠻族であらうと思はなくなつた。朝廷と人民とは最早全く平行線になつてしまつてゐた。「日出でて作し日入りて息ふ、井を鑿ちて飲み田を耕し

て食ふ、蠻族の帝力吾に何かあらん」と云つた氣持である。故に彼等が天災地變に會つた時でも政府が救済して呉れる事は期待してゐない。少なくとも政府が何もして呉れない事を十分知つてゐるのである。そして沒法子——仕方がない——と云つて諦めるのである。若し彼等の手に持つてゐる十錢の金を強奪しようとするならば死力を盡して抵抗するであらふ。而し如何しても抵抗するには餘りに相手が強力であつたり、或は天災地變の様な不可抗力の場合にはあつさりと沒法子である。但し最近になつて孫文の革命以來民族主義が高唱され、海外との交通が頻繁となり外國に於ける國家思想が流入され、一方現代經濟界に於ても強固な國家の保護がなければ個人の利益も充分保たれないと云ふ事など、色々な方面から自覺して來た知識階級の者は最近急速に國家意識を取戻して來た様である。徳富蘇峰先生は「一國の國民性は時代に依り變化する」と云はれたが、この老大國の國民性は徐々に變化しつゝあるのではあるまいか。眠れる獅子は足を動かし手を動かし、ほんとうに醒めようとしてゐるのではあるまいか。是の點は吾等日本人が十二分に注意すべき事である。

四、支那人の自尊心

支那の國民性の第二は「自尊心」である。昔大禹は九州を定めるや國中を五つに分つて文明、非文明の區別をした。都に近き部分を中邦となし、それより外の五百里を甸服となし、其外則の五百里を侯服となし、又其の五百里を綏服となし、綏服中の内部三百里は夷、外部二百里は罪人の追放さるる所となしてゐる。又其の外側の五百里は荒服と名付け荒服中の内部の三百里は蠻人の居る所で、外部の二百里は人を流す所と定めてゐる。そして中邦に居る自分達が文明人で、中邦より遠ざかるに随つて段々野蠻人になつて居るとなした。勿論其の當時は確かに中邦及び其の附近に住む漢民族のみが文明人であつたのであるが、この思想が後世まで續いて他民族を輕侮し、たとひ他民族から征服されても何等恥と思つて居ないのみか、心中常に自己の文明を誇り、高い自尊心を把持してゐるのは寧ろ不思議な位である。まだ私が學生時代の支那語の會話の時であつた。一友人が立上つて彼が蘇州旅行の折蘇州の町を見下した時の感想として「國破れて山河有り、城春にして草木深し」と云ふ感が深かつたと云ふと、支那人の先生は常になく緊張した態度で「何國が破れたのか、中華民國は五千年來綿々と

續いた國である、秦朝亡びて漢朝立ち明朝亡びて清朝が起つたけれども、國そのものは一度も亡びた事のない老國である」と云はれた。私は今更乍ら支那人の自尊心の深いのに驚いた。日清戦争の時も支那の全權委員は賠償金といふ名を大變嫌つたさうである。今でも彼等の胸の底には「俺達は世界最古の文明人で、外國人などよりすつと偉い民族だと云ふ自尊心を持つて居る」と思つて差支へない以上「無爲而化」と「自尊心」の二つの根本的國民性から又澤山の派生的な國民性を生じてゐる。今その一、二につき少しく述べて見よう。

五、實利主義

長い間放任されて而も兵匪に侵されても、強盜に荒されても没法子で成長して來た支那人は、彼等の生命名譽を護る者は只彼等自身より外には無いといふ事を十二分に知つて居る。所で彼等が彼等自身を守らうとすれば先づ先立つものは金である。だから彼等は非常に功利主義者である。感激性の旺盛な日本人は何か事があると支那人に向つて直ぐ義に依つて御助力しようとか、吾々は決して利益の爲にするものでないとか、或は只では是を爲して上げやうなど大いに犠牲的精神を發揮するが、支那人は

決して之を喜ばない。彼等に云はせると世の中に只で働くといふ事は有り得ない事であり、又考へ得られない事である。俗に「皇家家裡不使白頭人」即ち天子様でも只で人を使ふといふ事はないといふ諺がある位である。私が上海に勤めてゐた頃支那語の會話をもつと勉強したいと思つたが、何しろ住宅が浦東なのでとても交通不便で先生に來てもらふ譯にも行かないし又習ひに行く事も出来なくて困つてゐたが、或る知つてゐる支那の子供が英語を習ひたがつて居るといふ話を聞いたので一つ之を利用してやらうと思つて、或時その父親に向つて子供に英語を教へてやるから遊びによこせと約束をした。其の後數日経つても其の子供は來ない。二三度催促したが如何してもやつて來ない。それで私は犠牲的に教へてやると云つたので來ないかも知れないと思つたので、私が英語を教へてやる代りに私も支那語會話を教へて貰ふから、どうかよこして呉れと云つたら安心したのか其の晩からやつて來た支那の奥地を旅行する日本人の中には本當の親切心から支那人に藥などを與へて却つてスパイじやないかと誤解される事がある相である。又支那人の召使にしても各自の持場を固守して他の事には只では動かない。コックが遊んでゐるからと云つて風呂水を汲めとか室内を掃除せよとか云つても彼等は

ぶつ／＼云つて決して働かうとしない。但し二十錢なり三十錢なり特別賃金を仕拂ふと慾で仕事をする又少し遠い所にボーイをつかひにやると、歸つてからバス代を請求する。大急ぎでお菓子を買つて來いといふと、歸つてから正當な権利として俸代を請求する。癪にさわるけれども之があちらの習慣だといふのだから仕方がない。旅館や料理屋ではボーイに必ずチップをやらなければならぬ。此處でもボーイを只で使用すると云ふ事は許されないのである。若し與へなかつたら彼等は堂々と請求するのである。特別に色々と澤山の用を云付なければ大体支拂金の一割ばかりやればよいが、多くつかへば必ずそれに相當したチップを奮發しなければならぬ。充分働かしておいて少ししかチップをやらぬと怒つて此の客は面子を有たないと云つて罵る。こんな國柄だから彼等は色々と仕事を云ひ付けたり、叱り飛ばしたり人つかひの荒いお客様が大好きである。彼等は心中きつとチップが多いに遠くないと期待しながらホク／＼してゐるのである。

六、形式的、皮相的道德觀

彼等の道德觀は極めて皮相的であり又形式的である。元來仁義道德を説く儒教と實利一點張りの現代

の支那人とを一致させることは難しい事である。儒教の精神を其の儘實踐射行する事は實に窮極の事である。而し元來が自分達だけが偉い人間で外は皆野蠻人だと思ひ上つて居る支那人の事だから、儒教の假面を被つて聖人君子の風をする事は十分彼等の自負心を満足させたに違ひない。上の者がそんな風にすれば上の爲す所下之を習ふて、上下を通じて表面だけは儒教の形式が非常に好く行渡つてゐる。

衣 服

滿洲の油房の職工は例外だが。一般にどんな賤しい支那人でも臍から下、膝から上は絶対に人前には現さない。労働者は夏の暑い時は繁華な町の真中に於ても裸で仕事をしてゐる。それでもちやんと長いパンツを着けて居る。日本の男子が浴衣を着て大股で歩いたり、女が素足のまゝで外出したりするのは、支那人から見ると随分不作法に感ぜらるゝとの事である。所が彼等は一面そんなに几帳面であるにも拘らず相當の身粉をした男子が大道の直ぐ近くで恥しい様子もしないで、道の方を だら悠々と排泄運動を實行してゐる。何もかも丸見であるが、彼等に云はせると一方は禮儀であり、一方は

生理的必要からで何等聖賢の道に負いてゐない。大休人がそんな事をしてゐるのを見るのが道に負いた行爲だ位に考へてゐる。江南の春は非常に長閑である。人の來ない靜かな田舎に散歩でもして見ようと思ふ事があつても、田舎道に不淨な物が排列してゐる事を思ふとついに出足が溢つて終ふ。

酒

日本人は酒でも飲むと町中でも人混の中でも、元氣よく歌つたり踊つたりする。酔はらつて塵箱の上にあがつて大道演説でもすると、あいつは痛快な奴だ話せる奴だといふ譯で、妙な所に人氣が出てくる事もある。所が支那に於ては絶対に反對である。彼等は「酒は飲んでも亂に及ばず」といふ孔子の言葉を其のまゝ立派に守つてゐる。酒を飲んで人前に醜態を表はす様な事は絶対にしない。若しそんな事を萬一爲せば全然信用を失ふて終ふのである。宴會等に於て酷く酔ふと其の友人が馬車か自動車に乗せて家まで送り届けてくれる。吾々日本人は絶対に支那人化したり又支那の風俗を無批判に取入れたりはいけないが、こんな事に對しては郷に入りては郷に従ふだけの雅量と慎みを持つことは日本の大陸經營の上にも甚だ好い結果を齎すに違ひないと思ふ。

親孝行

親孝行にしても日本とは随分違つてゐる。彼等の第一の親孝行は親の生きて居る時から立派な棺桶を用意して置くことで、第一の親不行は後取り息子の居ないことである。だから棺桶を用意すると共に又不孝者にならない様に二號、三號を置いて善處する。親の死んだ時の泣振りなんかも親に對する眞心から泣いて居るのか疑はしい。よくまあ、あんなに泣けるものだと思ひしてしまふ。日本人などは泣き度い所を我慢しながら制し切れなくて忍び泣きをするので却つて悲壯な感がある。之が日本人の美點かと思ふ。彼等は和尚の讀經と共に實にけたましく全勢力をあげて泣き叫ぶ。昔はその泣聲が大變立派でよく遠い所まで聞るといふので孝子だといふ譯で縣知事から表彰された事もあつたこと。今でも親の喪中に在る子を支那では「孝子」と呼ぶ。そんな泣いて居ても時間が来てお経が止むとけろりと泣き止んで終ふ。隣り近所に不幸でもあると死者に對する同情心よりも却つて支那人の孝子の芝居を聴かねばならない苦痛が先に立つ。葬式では會葬者一同皆聲を張りあげて泣く吾々日本人には却つて白々しい感がある。日本の或る學者は支那の現状を指して「論語を例に讀め、假に論

語に親に孝行せよと書いてあるならば、支那人は親に不孝して居ると判断すれば好い」と極言する者さへある。少數の例外は勿論あるけれども支那大衆には眞實の仁義の大道は歪められてしまつて居るといふ感が深い。

七、溺女の法

一八七九年に於ける北支の大飢饉の時には殊に甚しかつた山西省では饑饉に迫られて多くの人達が肉の味を知つたと云はれてゐる。都市貧民や貧農は子供が生れてもその子を養育する資力がない場合には其の儘産湯の中に浸けて殺して終ふ。特に女の子は育てても其の經濟的價値が著しく男に劣るので陪錢貨―損な品物として犠牲にされる場合が多い。だから普通うまれた直ぐの子を産湯で殺すのを「溺女の法」といふ。重税と飢饉は人民を貧困へ失業へと驅り立てる。貧困者、失業者は溺女の法に依りて生産力の弱い女兒の育成を拒絶する。かくて男女の比率は甚しく不平衡となつて行く。支那の或る地方では男女の比が3對2であるといふ。需要供給の原則は此處にも影響して男は妻を高い錢を出して買はねばならない。温かい家庭のない所に明朗な國家は存在しない。前途に希望を持つことの

出来ない貧困青年は兵に匪に強盜に陥つてゆく。家に止る青年も亦貧困のため農匪兼業に墮落して行く。指導階級に於ける利己主義、無自覺や下層社界に於ける貧困、飢餓の爲に社會は非常に不安となり人心は悪化し聖教の眞精神は全く失はれてしまふ。この有様が支那の現在の状態ではあるまいか。

八、面 子 (ミエンツ)

こんな風な仁義道德の國だから吾々には了解出来ない様な面子といふ物が非常に根強く存在してゐる。上海あたりでは面孔とも云つてゐる。日本の「顔」に相當してゐる様に思はれる。例へば吾等が支那の縣知事を訪問する時には出来るだけ服装を調べ、極く丁寧な態度を以て應待すれば之は大變先方の面子を重んじた事になる。随つて先方も必ず之に相應するだけの好意を見せて呉れる。而し若し汚れた旅行服を着て束子のやうな胡を伸して如何にも豪傑らしい風をして訪問すれば先方の面子を損じたことになり、案内人や護衛兵のことも余り心配して呉れない。又何か難かしい事件が起つても相當額の賣れてゐる者が出て調停すると、其の人の面子に對して兩方ともその人に委せ、事件も無事解決することになる。私が且てボーイを浦東から上海まで使にやつて六十錢呉れてやつたら後で其の事が解

つて其のボーイは叔父のコックからお前は六十錢も貰つて面子を持つてゐるか、二十錢位もらふの丁度適當ではないかと叱られてゐた。こんな所にも面子があるらしい。夫妻喧嘩の時でも妻が大いに猛り立つて近所に宣傳して歩いて、主人は黙つて我慢してゐる。支那には好狗は鶏を追はず、好漢は女と争はず、といふ諺がある。女と争ふ様な事をすれば面子を臺無しにしてしまふのである。支那人と交際して行く上に於ては殊に面子を研究了解する必要がある。

日本人と支那人の好き嫌ひの相違

一、龜

日本人は龜を大變目出度い動物だとしてゐる。鶴は千年龜は万年と言つて長壽の代表的な物だとしてゐる。所が支那では全く反對である。龜は首と尾は爬虫類に酷似してゐるし、脊は甲殻類に似てゐると言ふので、彼等は龜を爬虫類と甲殻類の不倫の子だ、最も賤む可き物だと考へてゐる。支那語では龜の事を普通王八と言ふ。王八は忘八に通じ、之は孝悌忠信禮義廉恥の八つの道德を忘れて終つた者

生だと言ふ意味である。それで之は又馬鹿、畜生など人を罵る時の言葉になる。支那人の住宅の扉に「此地小便者龜也」と書いてある事があるが、之は此處に小便する者はオタンチン也と言ふ意味である。以前日本から支那に龜子束子が大量に輸出されたが、彼等に非常に嫌はれて、大失敗をした想である。日本人で龜一とか龜太郎などの名前の附いた人は支那に行けば時々困る事がある。之に反し、支那では蝠や鹿は大變目出度動物だとされてゐる。それは蝠は福に通じ、鹿は祿に通ずるからである。

二、鬼

日本では鬼將軍とか、護國の鬼とか、鬼と言ふ字を随分好い意味に用ひるが支那では「靈魂、幽靈、死者」と言ふ様な意味に用ひる。鬼方鬼國と言へば冥土の事だし、鬼祟と言へば亡靈の祟の事を言ふ且て日本から滿洲に鬼足袋が輸出されて、あちらで其の廣告が出て居るのを見て支那人は非常に妙に思つた想である。支那人は西洋人を輕蔑して洋鬼と言ひ、日本人に對しては東洋鬼と言つて罵る。阿片中毒に罹つて色青さめ、瘦こけて幽靈の様になつた者を煙鬼と呼んで居る。

二、偶數 奇數

日本では一三五など奇數を好み、偶數を忌む。殊に四は死に通じて非常に嫌ふのであるが、支那人は二、四、六など偶數が大好きである。人に物を贈る場合は必ず偶數を贈らなければならない。又金を贈るにしても、一元の時は仕方がないが、其れ以上奮發して贈らふと思ふ時には必ず二元、四元、六元など偶數を贈らなければならない。甚だしいのは「喜」の字も一字で目出度ないと言ふので喜の字を二字並べて書く。諧の字であつて、支那人は之を双喜と呼んで居る。日本でも碗の模様などに時々之を見受けるが、實際は何と讀む可きか辞典にも載つてゐない。それかと言つて模様でもないし困つた文字である。

三、帽 子

人を訪問する場合、日本では必ず帽子を取らなければならないが、支那人は帽子を被つたままずつと客間に這入つて来る。これがあちらの習慣であり、禮儀である。且て中華學生が着帽の儘教室で授業を受けようとして、日本人の先生から叱られた事があつた。昔の科學の試験の時でも受験者は帽子を

被つたまま受験する事になつてゐたので四書五經の豆本を此の帽子の下に藏ひ込んで、試験場に入りひそかにカンニングをした想である。又支那人は道で親しい人と遭つた時でも一寸首を下げて、ここにこするだけで帽子を取らない。ソフト帽をかぶつた場合でも同様である。又支那人は人に面會した際は、例へ全く知らない人の場合でも、久しく貴男の尊名を仰いで居りましたと言ふ。其の上、平氣な顔して年齢、月給、妻の數など遠慮なく尋ねる。馴れない日本人など一寸面喰ふかも知れないが怒つてはいけない。此が向ふの習慣である。且て李鴻章が歐州に漫遊した場合、到る處で御國流を發揮してレイデーに年齢を尋ねたと云ふ話は大變有名である。奥様の數など尋ねられた時は、好い加減に三人居るがこちらに連れて來れなかつたので、日本に置いて居る位に答へて置けば好い。月收四十圓位の支那の苦力小頭でさへ一、二人持つて居る御國柄である。我等相當の俸給を頂いて居る者は三人位は當然である。眞面目に、まだ獨身だなど答へたら、彼等は必と三十面下げてまだ妻ももてない様な男は信用出來ないと思ふに決つてゐる。

四、字アデナ

名を稱んではいけない。例へば李鴻章閣下など叫ぶのは、例へ閣下と言ふ敬稱を附しても大變失禮になる。人の「名」を叫び得るのは、一天万乗の天子様と其の人の兩親より外には居ない筈である。支那人は普通以上の者は必ず「字」を持つてゐる。李鴻章の字は少荃、蔣介石は中正である。だから李鴻章に對しては李少荃閣下と呼ぶ可きである。尤も周作人の様に字は廢止すべきだと主張實行して居る者もないではない。因に現在支那では字も号も完全に一致して居る。又一度面會したら決して其の人を忘れない様に覺わて居なければならぬ。再會の時再び其の人の姓字を尋ねる事はあちらの風俗では大變失禮な事になつてゐる。

五、茶

扱而、愈々用事も略話し終つてた頃先方から御茶を御飲み下さいと言はれたら、最早起立つて、歸らなければならぬ。而しどうぞ御自由に御上り下さいと言はれたら其の限りではない。緩つくり飲んで寛いで好い。歸りがけに日本人なら奥様に宜敷と言ふのだが、支那では決して言つてはいけない。若し言はふ物なら、實に深刻に嫌な顔をする。但し學生は先生に對し、師母に宜敷くと言つて差支は

なく、又兄弟の様に至つて親しい朋友の間柄ならば甥に宜敷と言つて好い。所で支那人はお茶と御茶の葉とを正確に區別するから注意せねばならない。支那語を知つてゐる人でも違うつかりして、御茶の葉を買つて來いと言ふ所を御茶を買つて來いと言つて失敗する事がある。

日本で御飯を食べる御碗の事を御茶碗と言ふが、あれは支那ではほんとうに御茶を飲む御碗である。御茶碗の中に茶の葉を入れて、其の上に熱水を注ぎ込み、蓋をなし其の蓋を少しこらして飲むのである。飲んで終ふと熱水だけを其の中に注ぎ込んで飲む。御茶の香が出て終つて味がなくなると御茶碗の中に又新しい茶の葉を入れて飲む。支那人は大變御茶を好む國民である。茶館などと言つて特殊な發達をした喫茶店も有る。又旅行者も旅に出る時はわざ／＼自分の好きな茶の葉を持つて行く位である。支那人が日本人の所に御客に來て、牛の目玉位の御茶碗に三分の一ばかり入れて小笠原流で差出されると若干悲觀する想である。支那の飯碗は御茶碗より大きくて蓋がない。

六、不潔

彼等は一般に著しく不潔である。風呂なんかにも、生れた時と結婚の時と死んだ時と一生に三度しか

入らないと極言される位である。上流社會の人でも精精一ヶ月に一度入る位のものである。尤も入浴賃も日本の様に安いものではない最低六十錢位、並通二圓位は取られる。日給五十錢や六十錢位の労働者なんか入りたくても經濟的に出來ない相談である。なぜそんなに高いかと言ふと、支那の風呂は一部屋一人専用で、部屋内には、一つの浴槽に二疊位の休息所が附屬して居り、枕も煙草盆もちやんと備へてあつて、半日位ゆる／＼楽しむ様に出來てゐる。大衆浴場は殆んど無い様である。北京には一、二軒ある様な話も聞いた事があるが、確かな事は知らない。而し労働者も一年中身体を拭かない譯でもない。時には水や湯で好く拭いてゐる。上流の者でも女は風呂には行かないで、室内に湯を持込んで身体を清めるとの事である。殊に彼等は男も女も共に左右同形の靴を穿いて居るので、時々足を好く洗はないと指と指とが食附いて終つて腐るとの事である。

其の他、便所に行つても手を洗はない。川では便器を洗ふ女と米を洗ふ女とが一緒に世間話でもしながら仲好く共存共榮してゐるし、又緞子の着物を着た立派な、教授でも、教室の廊下で元氣よく手鼻を取る。鼻で汚れた指をどう處分するかと思つて注意深く見て居ると、一寸足を上げて布靴の裏で

拭くから痛快である。常に靴の裏でばかり拭く譯ではないが、兎に角他は推して知る事が出来よう。手鼻を取らない時には長い袖の中からきたないハシカチを出して拭くのである。

七、髪 剃

支那の婦人は絶対に剃を顔に當てない。彼女達は絹絲を撚り合せて、それに毛を捲込んで抜いて終ふ春の暖かな日に、日向ぼつこをしながら母親が小さな娘の顔の生毛を抜いでやつてゐるのは、實に長閑な眺である。支那の娘達の御化粧の美しい一つの原因は、顔に毛が生へて居ないので白粉が好く伸びる爲である。彼等に取つては日本婦人が平氣で髮剃を顔に當ててゐるのは、一つの不思議であるらし。

支那人の諸性質

一、北方人と南方人

支那は土地が非常に廣大で、人の氣質も所に依つて大變異つてゐる。一般的に言ふと、北より南に行

くに随つて人の体力は漸次弱くなり、氣質は反對にだん／＼強くなつて来る。即ち山東、河北、滿洲あたりの支那人は、身体頗る強健、氣質至つて温順で、勞動者としては最も適任である。これ迄滿洲でストライキが起つたと言ふ事はあまり聞かない。之に反し南方廣東、福建、湖南、方面の人間だと熱し易く又冷め易く、至つて意地張である。之は南と北とで氣候風土が著しく異なる爲か或は南方人ほど多分に古の苗蠻等の蠻民族の血を受けて居る爲であらふ。一時上海あたりでも、廣東の乞食は外省の者からは決して物を貰はないと言ふ様な事も有つた。現に革命の親玉は全部南方人である。歴史を緝いて見ても、昔から確かにその傾向が有つたと思ふ。今より二千五百年ばかり前、春秋戰國時代に起つた、あの吳越の争の猛烈ぶりを見ても領ける事だと思ふ。周の敬王の二十四年吳王闔廬は越との戦に傷いて遂に死んで終つた。其の子夫差は此の父の仇を報ずる爲、朝夕薪中に臥し、出入する度に「夫差汝は越人が汝の父を殺したるを忘れたるか」と人をして言はしめ、敵愾心をいやが上にも作興した。遂に敬王の二十六年越王句踐を大いに夫椒に破る事が出来たのであつた。破られた越王は余兵を以て會稽山に立籠り身は臣となり妻は妾となる事を條件として、命を許されん事を請ひ、太宰伯嚭

の助を得て、辛じて命を全ふして越に歸る事を得た。歸來後彼は膽を坐臥に懸け、膽を仰いで之を嘗めて曰く「汝は會稽の恥を忘れたるか」と、十年生聚し、十年教訓し遂に二十二年の後元王の四年越は吳を滅ぼし、復仇の念願を達したのであつた。又今から二千二百年ばかり前の事、秦の全盛の時代に六國はさんざん秦に苦められたのだが、史記には「楚三戸なりと雖も秦を滅ぼす者は必ず楚ならん」と言ふ語が見えてゐる。果して項羽の様な猛烈なる大將が現れて秦に大打撃を與へたのであつた。當時の吳、越の人達は漢民族ではなく苗とか獫とか言ふ南方蠻民族であつたが、彼等の烈しい精神力が今尙南方人の胸深く波打つてゐるのではないかと思ふ。随つて、日本人が支那に行つてボーイを使つたり會社で使用人を用ふるにしても、北方人と南方人とは幾分違つてゐると言ふ事を記憶して居なければならぬ。事實に徴すると、南方の方がすつと使ひ憎い。紡績會社などでも一時は、湖南廣東などの氣性の烈しい連中は職工として雇ひ入れる事を嫌つてゐたとの事であつた。

二、不正直

ある支那通の學者が、「今や支那は道德頹廢してゐるが信義だけは今尙幾分見る可きものがある。」

と言はれたのを聞いた事がある、或程知識階級や大商人間にはまだまだ信義の美德が残つてゐる様であるが、一般支那人は必ずしもそうではない。

打續く兵亂、苛斂誅求、社界不安、天災地變、の爲に支那民衆は吾人が想像出來ない程に困窮してゐる。古の聖人は「衣食足りて禮節を知る」と言はれたのだが、確かに現在の支那大衆の不正直の原因は貧困に在ると思ふ。支那人は見透いた事までも平氣で嘘をつく。之は支那の役人達が自己の權力を以て、沒義道に下の者を壓迫するから、下の者は彼等の權利を擁護する爲に、正當防衛の一方法として、已むを得ず嘘をつくののである。一國の國民が不正直で嘘を附くのは、其の國の政治が悪いためだと言はれてゐる。家庭に於ても、親達が子供を無暗に叱り飛ばすと子供は自然と嘘を附く様になる想である。今日支那人が嘘を附いて何等良心の苛責を受けない無恥の國民になり果てたのも、彼等が過去長い間不當に壓迫されて來た結果であらふ。それだからと言つて、日本人がこの支那人の惡風を直ほすつもりで溫情を以て彼等を勞はり、彼等の過失は何でも寛大に直ぐ許してやると言ふ態度を取るならば、彼等は直ちに且遠慮なく主人をなめてかかるだらふ。永い間に出來た先祖代代の支那人の惡

癖はそう短時日には直るものではない。一部の例外は有るが、支那大衆の中には實に「打てば泣き賺せば付け上り殺せば化けて出る」と言ふ様な困つた連中が多い。昔から支那には「恩威並び行ふ」と言ふ言葉がある。日本人なら主人より人格的な取扱ひを受けると直ちに知巳の恩に感激して、この主人の爲なら生命も惜くないと言ふ様に感激して終ふ。支那さんはそうは行かない。彼等に十分仕事をさせ度いと思へば相當の恩即ち物質を施さなければならぬ。恩を施しても威を施さなければ遂には彼等になめられる結果に終る。だから懸賞で第一線の兵士を大いに元氣づける一方督戦隊で威を示したり韓復榘を殺して見せしめにしたりせなければならぬ。米國人は支那人の此の点を十分心得てゐる。米國の上海居留民は二、三千人に過ぎないのに、わざ／＼一万噸の巡洋艦を而も最も繁華なバンドに淀泊させ、其の近くには之又出来るだけ番号の大きい百号とか二百号とかの驅逐艦を二、三隻之見よがしに淀泊せしめてゐる。無知な、そして事大主義な支那人は、米國の軍艦は他國のよりもずつと大きい。又あんな立派な驅逐艦が二百隻もあるのかと心から其の威に打たれて終ふ。一方又米國は支那に對しては利害關係が少いので、好い加減に煽ててやるので、恩威並びに行はれる様になるのである。

ある。
日本人の中には大いに威を示すつもりでボーイなどを打つ人が有るが之は戒む可き事である。彼等は打たれると猛烈に怒る。却つて反抗心を叫び起すだけで何等威を示す結果とはならない。

三、盜　　み

人を見たら泥棒と思へ、之は支那に於ては仲々實感を伴ふ言葉である。

ある會社の獨身社宅での話だが、香氣な青年社員達が何かの事で大いに憤慨して朝つばらからボーイに出て失せろと嚴命した。御本人達はそれで溜飲を下げて、元氣よく會社に出勤、さて夕方口笛でも吹きながら足並揃へて歸つて來ると、皆ネクタイが無くなつてゐる。靴がなくなつてゐる。箆筒を開けると洋服もなくなつてゐる。勿論ボーイもなくなつてゐた。これなんかは傑作の方だが、普通の時でも支那人はちよい／＼奥の手を出す。但し盜むにしても日本人とは非常に異なつてゐる。常に存在する所に其物が存在して居れば監視はなくとも容易に盜まない。例へば主人公が時計を常に机の上に置く癖が有れば、例へ其の人が時計を机の上に置いた儘外出しても仲々手を出さない。但し主人が洗

面所に置き忘れて外出でもすると、彼等は待つて居ましたとばかり奥の手を出す。而し遠謀深慮の支那人は直ちに完全には盗まない。その時計を一寸洗面所の隅の物の下など人の氣附かない所にかくして置く。この際主人の追求が烈しければ、何食はぬ顔して、洗面所の隅に落ちて居ましたと言つて出して来るが、主人の追求が緩かつたり、數日間忘れても居よう物なら今度こそ自分の物にして終ふ。總ての支那人召使がそうだとは思はぬが悪い者が大變多いから警戒すべきである。それから支那人召使は、甚だ従順でない。何か言へば必ず口返事する。口返事しない召使は非常に稀である。私は初めは、彼等は吾吾日本人に對してのみこんな口返事するのと思つて居たが、支那の小説やら戯曲やら讀んで見るとそうでもないらしい。彼等は支那人の主人に對しても甚だ勇敢に口返事をしてゐる。

四、金錢に對する態度

支那人に金を渡すと必ず錢を一應目の前で改めて受取る。五圓紙幣を渡せば「之は五圓紙幣が一枚です」と言つて確かめる。吊り錢を取る時でも必ず渡す人の目の前で正しく其だけの金額が有るか否か、偽錢は混じつてゐないかを確かめてから受取るので後で悶着を引起す様な事がなくて済む。之は實

に吾等の見習ふ可き立派な事だと思ふ。所が召使を買物にやると當然の事のように上前を刎ねる。十錢位の買物の時でも一錢位上前を刎ねる事を忘れない。高價な物を買ひにやると店員に頼んでちやんとそれだけの領收証を貰つて来るが、其の實は五分か一割は必ず實際より高く書いてある筈である。又汽船会社のランチの船長でもこつそり外の船を曳いてやつたり人の荷物を運搬してやつたりして別途収入を圖つてゐる。但し会社の仕事だけには決して差支へない様にするし、石炭も極度に能率的に使用して損失をかけない様に努力する。だから彼等は別段悪い事をしてゐるとは自覺してゐない。彼等の物の考へ方は吾等と随分違つてゐる。

五、宣傳

支那人が宣傳の上手なのは余りにも有名な事である。新聞などでも、昨日何々の講演大會が催されて聴衆無慮三萬人であつたと書いてあると、正直な日本人は支那人がいくら法螺吹だと言つても實際一萬人位は居たんだらふと考へる。所が實は三千人か、二千人か或は以下の場合もある。路上で支那人同志喧嘩をして居るのを見るが其の原因は大抵些細な場合が多い。一寸足を踏まれたのにしても、日

本なら「失禮いたしました」位で何でも無く解決するのであるが、あちらでは直ぐ得意の長期抵抗に出る。なぜ足を踏むか、なぜそんな所に足を出して置くかと言ふ様な他愛もない事で二十分でも三分でも喧嘩する。喧嘩が有るとすぐ見物人が集つて来る。すると今迄向ひ合つて喧嘩して居た甲乙兩人はぐるりと百八十度の回轉をして互に臀を向け合ひ、見物人に向つて自己の意見を主張し宣傳する。甲は自分の言ひ度いだけ言つて終つて悠々其の儘行きかけると乙は狼狽して甲を引止めて又後を向ひて其の先を續けて主張する。乙が言ひ度いだけ言つて溜飲を下げて行きかけると今度は甲が引止める。流石は御國柄だと感心する。

支那の田舎には文字を解する者が至つて少ない。彼等の社會ニュースの傳導者は主として町から来る行商人である。町でラヂオ、新聞又は人から直接に聞いた色々な事柄を彼等は田舎の茶店やら、御客様の家で得意になつて話して聽かせる。何がさて、話題の少ない田舎の事である。行商人から話を聞いた甲は之を乙に、乙は丙に得意になつて新知識を授けてやる。所が一般に噂とか話とか言ふ様な物は人の感情も加はつて、人を経る毎に益々大きくなつて行くものである。まして誇張宣傳を國是として

て居る様な支那では推して知る可きであらふ。憐む可き彼等は煽動者の宣傳のままにいろ／＼と躍るのみならず又擴聲機の役割も果して呉れる。

六、國事を談する勿れ

支那人は官吏でも日本人の様に余り政事を談しない。日本人が場所も弁へず無暗矢鱈に政治を談論するのを支那人は非常に嫌がるのみならず大變恐ろしがるのである。何處に秘密探偵が監視して居るかも知れない。彼等は日本の様に言論の自由を認められて居ないし一度當局の忌諱に觸れたら、直ちに死を覺悟しなければならぬからである。

七、文字を大切にす

支那人ほど文字を大切にす國民は有るまい。立派な紳士が町の大通りに落ちてゐる反古紙を拾つて町の處々に懸けてあるアンペラ製の袋に入れてゐる。彼等は文字を大切にすれば自分より七代の子孫中に必ず學問の秀れた官吏が現れて、大いに家門の名聲を擧げる、と言ふ迷信を固く信じてゐる。官吏になれば、實力に依りて民を苦しめさへすれば、いくらでも資産家に成れる譯である。昇官發財と

そば支那人の唯一の憧れである。随つて新聞紙を便所で使用するなど彼等知識階級の人達には思ひもよらない事である。塵紙のない支那では彼等は馬糞紙を使用する。吾等日本人も支那に行つたら出来るだけ文字を大切に於て紳士としての体面を損じない様に心懸けなければならぬ。

八、五分間の熱（五分鐘的熱度）

支那人は非常に氣の長い民族だと一般に信ぜられてゐるが、實は非常に興奮し易い人間ではないかと思つてゐる。彼等は實利主義者で感情なんか生れる時忘れて來た様な人間だと思はれてゐるが、自殺者なども相當に多い想である。之は大抵姑から叱られた嫁とか、元氣を出して喧嘩をして敗けた者達が興奮のあまり、或は面當に死んで終ふ。氣死と言ふ言葉は憤死するとか、怒りのあまり死ぬとか言ふ意味であるが、實在、我要氣死了……私は怒の爲に死に想だ……と言つて手を振り地をけつて怒る時の様子はとても凄しくて、形容の言葉を知らない。そしてその興奮の余り悶死したり或は勢に乗じてほんとうに自殺して終ふ事が有る。私が或る冬の日、浦東から上海に用が有つて出かけた時の話である。船中に二十七八歳の一青年が五十歳位の者から何か責められて居たが、叱責が烈しくなるに連

れて、泣き出した様だつたが、彼は突然顔面蒼白となり斷末魔の様な悲痛な聲を張り上げると、其の儘身を翻して黃浦江に飛込まふとした。幸にも間髪を入れざる危機に傍の人達が其の青年を掴まへる事が出来たが、それでも尙氣狂の様にもがいてゐた。人も知る如く黃浦江は水流烈しい河で、一度飛込めば、相當水泳の達者な者でも、非常に危険である。まして普通の者が、不自由な服装をして、飛込めば、直ちに濁流に捲込まれて死は逸れないであらふ。私は目のあたり、余りにも悲痛な五分間の熱を見て今更ながら驚いた。見るからに鈍重そのもの様な支那人が些細な事で突然狂人の様に狂ひ立つのを度度見るのは一つの大きな驚異である。

共存共榮

一、大家族

支那國家の成立の所で述べた様に、支那はその初め、大きな血族的な大部落から發達したもので、現代に於ける大家族も其の遺産である。而してこの遺物が途中で廢絶しないで今日まで數千年の間その面影を遺して居るのは、經濟的にも一大原因が有ると思ふ。歴史に依れば、太古堯舜の時代には人民は

非常に願朴であつた。まだ舜が帝位に登らない前歴山に耕した所が民は舜の徳に化せられて、皆其の畔を譲り合ふ様になつた。又今度は雷澤に漁すれば人皆居を譲り、河濱に陶すれば人人は器を粗製濫造しない様になつた。舜が居た所は人其の徳を慕ふて集つて來た爲に直ちに村落となり、二年目には邑となり、三年目には都となつた。後世堯舜時代を支那の黄金時代と稱するが、それは堯舜が聖人であつた事もさる事ながら、民がまだ質實であり願朴であつた爲だと思ふ。而しこんな願朴であつた民も打續く社會不安、生活困難のため、利己的にならざるを得なくなつた。三代以後は王道を行ふ君主も稀であつたし無爲而化と言ふ事も、最早後世になると、手を加へて治めなくとも世の中はどうにかなるだらふ。王道を行ふ爲に聖人の教を實踐窮行するなどそんな窮屈な事は嫌だ」と言ふ風に墮落して終つた。そして王室は愚民政策を取つて出來るだけ民を搾り自分達はひたすらに享樂生活に走つただから一般民衆も道德や、規律を守る事よりも先づ生きる事が急務であつた。仁義も道德も生きる爲には余り拘泥して居られなかつた。而もこんなに利己的の支那人が今尙大家族を形成し、お互に其の家々の爲には、非常に犠牲を拂つてゐると言ふ事は血屬的感覚の爲ばかりではあるまい。農商業の場

合には大家族であつた方が都合が好いのも一つの原因だが特に物資欠乏。生活困難の爲生活費を切り下げるために分家を爲さうと希望しても出來ないのである。防寒具の準備なき者達が凍死を逸れる爲には、協同一致、自他の体温によりて暖まるより外に道はない。無分別に分家をすれば本家も分家も共に潰れて終ふかも知れない。彼等は協同と低い生活とに依つて辛じて生き延びるだけである。上海の相當繁華な町に相當大きな雜貨店があつた。其の店では二階で洋服も作つて居たので、ある時私も其の店に注文した事があつた。所が期日になつても、持つて來なかつたので、催促に行つて見たが、奥から此の店の主人公の妻である日本人の老婆が出來たので、私は好奇心から私の服は何處で作つて居るか、どれ位出來上つてゐるか仕事場を一寸ばかり見せて呉れと頼んで見た。老婆は一寸澁つた顔をしたが、漸く承知して呉れたので、奥の間に行つて、其處からどどん二階の職場に上つて行つたが驚いた事には、初めは四五人の家族だと思つてゐたが彼處此處に小兒や女など澤山居て、合計すると、どうしても二十人以上の大家族である。而もベットは僅か三個しかなかつた。恐らく大部分の者は机の上やカウンターの上下梯子の下などに毛布一枚で寝るに違ひない。私は今迄、苦力や、

不屏社會の人達の生活は見て大凡知つて居たが、これ程の相當の家庭に於ても、こんなに低い生活に甘んじなければならぬのかと今更ながら氣の毒に思つた。旅館のボーイなどは定つた寢室を持たないのが多い、夜は食堂のテーブルやカウンターの上に、冬でも毛布一枚にくるまつて寝なければならぬし、會社の小使も宿直の晩はカウンターの上に毛布一枚でゴロ寝する。百姓や苦力などは土間の上に竹を打込んで小さなベットの様な物を作つて其の上に休むが、其は家長や、老人だけで、外の者は藁の中に、もぐり込んで寝る。その点では滿洲方面の農民が遙かにましである。

以上の外、國家保護の十分行はれて居ない支那に於ては、大家族が一緒に住んで居れば、匪賊や強盜に對する防禦及び相手に對し權利を主張する時などに非常に好都合である。若し將來強固な統一國家が出来て、社會不安が一掃され且産業が開發されて來て、収入が多くあり生活が樂になれば個人主義者の支那人は漸次大家族から分離獨立するのではなからふか。

二、幫

幫は同業者、或は同地域の商人の團體である。綿花幫、米幫と言ふのは前者で、廣東幫、潮州幫と言

ふのは後者である。共に團結の力に依りて彼等の利益を擁護しようとするのである。殊に同郷人間に於ける幫は其の團結が極めて強力であると言はれて居る。

三、株式會社

支那では株式會社はあまり發達しない。之は資金の涸渴、軍閥の虐殺的誅求も原因だが又一面國民性に災されてゐる点も少なくない様である。實に支那人は砂の様な物で一人一人の力や、特定小利益團體の結束は甚だ強いが、一般的多人數の團結力は弱い。株式會社の様に、多人數が出資して、手腕の勝れた者に其の經營を一任する様な組織は支那人には不向である。株主は利益の配當を強要するし、重役の中には辞任の際に在任中の積立金の分配を強要する者も有る。又新重役就任と共に、會社の便所掃除人まで自己の一族を以て人替へる事も稀らしくない。勿論相當有力な實業家が、自から陣頭に立つて切り廻して居る會社は相當發展して居るが、其とても其の一人一人の資力命令の及ぶ範圍は限りがあるから、随つて會社の發展にも自づから限度が有ると思ふ。所が匿名會社や、合資會社は非常に堅實に發展して居る。裕福な官吏や、商的才幹のない資産家は、自己の信賴してゐる商人に出資し、

經營の全部を一任して、其の利益の分配を受けてゐる。此の場合兩者間に於ける信任の程度は非常に強固であり、出資者決して指圖がましい様な事はしない。

四、商店

相當大きな商店でも、店員の月給は大抵五圓位で、支配人でも、二、三十圓を出でない。但し月給が少くない割合に利益分配の制度が善く行渡つてゐる。即ち年末の賞與金は日本に比して非常に莫大である。だから彼等店員は協力一致利益を擧げる事に努力する。一人の御客が店に這入つて來ると、全店員が愛想よく歡迎して呉れる。御客様が與へて呉れた少しの利益も年末には彼等全体が其の恩恵に浴すると云ふ考が腦裡に潜在してゐるからであらう。彼等は正月になつて、しこたま賞與金を貰つて、奇麗な衣服を着て父母或は妻子の居る故郷に歸る事を無上の楽しみとしてゐる。

世の中で戀の恨とパンの恨が一番深いと言ふが支那の様に、生活不安の國に於ては、パンの恨は實に深刻である。失業は眞に餓死を意味する場合も少なくない。だから一度得た職はいつまでも失はない様に努力する。日本人の會社に使用されて居る支那人が排日の悪空氣にも屈せず、敢然として業務に

精勵したり、ひそかに排日團の行動を知らせて、日本人を感激させたりする事がある。それはもと／＼其の人が立派な責任觀念の持主であるためでもあるが一面、職を失はない爲の努力であり又今まで幸福に暮して來た事に對する感謝の表である。日本人と取引して居る華商の中には却つて、日本人より信用の厚い者が有ると言ふが、之又日本人と強い利益關係を結んで共存共榮を圖つてゐる爲である。吾等は自から利すると共に又彼等をも利せなければならぬ、即ち共存共榮こそは日支提携の鍵である。

五、日支の共存共榮

思ふに三皇五帝の夢遙かなる昔は暫く措くとするも、殷周時代既に早く文化燦然として喚發し、自から中華と自負したる支那は傲然、唯我獨尊を極め込むに至つた結果、傳統保守の弊に陥つて終つた。三千年間、全支那文明は祖先崇拜と言ふ權威の上に築かれ、祖先崇拜は支那文化の精髓をなした。古典を完全に繰返す事が學問の目的であり、夫の巧なる學者は尊敬を受けて高官に登つた。かくて支那人が自己陶醉に溺れて、徒らに朝を更へ代を重ねて二十四史を作つてゐる間に、支那は世界の劣敗國にな

つて終つて居た。廣袤幾千里、厚く天産を有し深く地利を藏しながら、尙民に生色なく野に餓孚横はり、西力東漸の勢に押されて、何時しか其の殖民地と化せんとして居た。茲に東亞の盟主たる祖國日本は一度立ちて清國を覺醒し二度立ちて露西亞を驅逐し三度立ちて滿洲を食め、今や又共產黨の走狗たる蔣政權を打倒して靖亞の大業を完成せんとしてゐる。此の非常の秋に於て吾等實業に従事する者は當に何をなす可きか。かの共存共榮の原則に則り産業を開發して、四億の民に職と平和とを與へ、文教を興して排日の弊風を打破し、相共に携へて、大亞細亞の光を世界に輝かさなければならぬ。

昭和十四年五月一日印刷
昭和十四年五月卅日發行

【非賣品】

著作者 佐賀縣立伊萬里商業學校
發行者 横 地 徹 三
印刷者 佐賀縣伊萬里町百五拾七番地
印刷者 大 串 達 一
印刷所 佐賀縣伊萬里町百五拾七番地
印刷所 大串活版印刷所
發行所 佐賀縣立伊萬里商業學校

389
311

